

地域社会と連携した体験型環境教育の試み

初等中等教育と連携した人材育成を中心に（1 2）

藤野裕弘^{*1}・倉元隆之^{*1}・日比慶久^{*2}・藤吉正明^{*1}・小栗和也^{*1}・内田晴久^{*1}

1. はじめに
2. 連携先の検討
3. 久米島ホテル館との連携に関して

1. はじめに

人類社会の持続的存続には、環境問題を広い視野から考え、問題の解決に向けて行動できる人材の育成が必要である。そのような人材育成には、人文・社会・自然科学の垣根を越えた学際的で実践的な教育プログラムの構築が極めて重要となる。その中でも実践的な環境教育への期待は大きく、2000 年には国連における日本主導の「持続可能な開発のための教育の 10 年」がスタートし¹⁾、日本では環境教育の推進を目的とした「環境保全活動・環境教育推進法」が 2003 年に成立した²⁾。

東海大学では、環境分野における学際的な人材の育成とその成果を、地域社会に還元することを目的の一つとした環境憲章を 1997 年に発表している³⁾。また、教養学部では、広い視野を持った人材を育成するため、学部共通科目を段階的に履修させ、実践系科目に結び付ける学部共通領域を構築している。さらに、教養学部人間環境学科では、自然科学系と人文・社会科学系カリキュラムを融合させた人間環境領域（総合環境科学系）を構築し、人間環境に関わる様々な問題を、人文・社会・自然科学の枠にとらわれない広い視野から考え、問題解決に向けて行動できる人材の育成を目的に、実践的な環境教育プログラムを実施している^{4)、5)}。この特徴的な環境教育プログラムは、2011 年度の日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会 21 期提言の中で引用されるに至っている⁶⁾。こうした背景のもと、我々は、様々な体験型環境教育プログラムを実施してきた⁷⁻⁶⁵⁾。

しかしながら、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、宮古島の小学校への出前授業を実施することができなかった。そこで、沖縄県の島々において、新たな連携先の検討を開始した。

2. 連携先の検討

コロナの感染拡大が終息すれば、これまで通り宮古島の小学校への出前授業を継続する予定であるが、出前授業が中となったことを受け、連携先を増やす試みに取り組んだ。

沖縄県は、多数の島々から形成されており、大きさでは、沖縄本島、西表島、石垣島、宮古島、久米島の順となる。石垣島とその周囲の八重山諸島については、現地の教育委員会と調整してきたが、沖縄本島や宮古島同様に観光地化が進んでいる。そのため、日本本土のコロナ感染拡大の影響を直接受けることから、候補地からは外すこととした。

2020 年度は、南西諸島（奄美・琉球）の世界自然遺産登録に向けた取り組みが最終段階に入っていたこと

投稿日 2021 年 12 月 22 日 受理日 2022 年 1 月 12 日

*1 教養学部人間環境学科自然環境課程 *2 スチューデントアチーブメントセンター

から、該当地域の状況調査も実施していた。そこで、鹿児島県の奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄県の久米島に関して、連携先を検討した。

結果としては、久米島ホテル館において、連携の可能性が浮上した。

3. 久米島ホテル館との連携に関して

久米島は、沖縄本島の西100kmにある県内5番目の大きさの島である。那覇空港から空路で35分、那覇泊港から海路で約3時間30分の位置にある(図1)。人口は約7千名であり、ダイビングスポットとして有名である。産業としては、サトウキビやクルマエビ養殖、久米仙(泡盛)などがある。琉球王朝時代は、大陸や日本との交易の寄港地としての役割を担っており、史跡も多い。

また、久米島には、キクザトサワヘビ(絶滅危惧種)やクメジマボタル(天然記念物)をはじめとした貴重な固有種も多く、久米島ホテル館(図2)が中心となって保護活動が実践されている。

久米島は沖縄諸島の最も西側に位置することもあり、海岸への漂着ゴミが多く、久米島ホテル館(NPO法人久米島ホテルの会)では、小学校と連携し、小学生による漂着ゴミ回収体験を実施している。しかしながら、ゴミの分別や3R(減量化、再利用促進、再資源化)が大切である事の理由を教える授業が実践できておらず、大学生が構築した体験的環境教育プログラムに興味があるとのことであった。

小学校に興味を示す教員がいれば、ホテル館だけでなく小学校との連携も可能ということであった。久米島は、図3～9で示すように歴史もあり、自然も豊かである。博物館も充実しており、学生の体験演習のフィールドとしても期待できることから、久米島ホテル館館長とNPO法人事務局長に小学校との調整をお願いして、再度の来島を約束した。

それ以後、久米島ホテル館に再度訪問し、出前授業の実施に向けた調整を行い、2021年11月2日に、学生主体の出前授業を、大岳小学校で実施することができた。これについては、別の機会に報告したい。

謝辞

この教育研究の一部は、2020年度の教育研究補助金により実施された。関係各位に、感謝申し上げます。

引用文献

- 1) ESD-J 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議
<http://www.esd-j.org/>
- 2) 環境省総合環境政策局環境教育推進室, 環境教育・環境学習, 環境保全活動
<http://www.env.go.jp/policy/edu/>
- 3) 東海大学環境憲章 <http://www.u-tokai.ac.jp/ems/kankyokensyo.htm>
- 4) 藤野裕弘・内田晴久 他:「企業のCSR活動と連携した実践系授業の展開(1)ーCSRと大学院授業との連携ー」.
2010年度日本環境教育学会第21回大会研究発表要旨集, pp. 156(2010).
- 5) 藤野裕弘:「地域社会と連携した体験型環境教育の試みー東海大学の実践例ー」. 私立大学環境保全協議会会誌. 第15号.
19-24(2012).
- 6) 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会21期提言:「高等教育における環境教育の充実に向けて」. 2011年9月22日.
- 7) 室田憲一・藤野裕弘 他: NPOと連携した体験学習型教育の試み. 2003年度日本環境学会第29回研究発表会講演要旨集. pp. 178-180(2003).
- 8) 室田憲一・藤野裕弘 他: NPOと連携した体験学習型教育の試み. 東海大学紀要教養学部. 第34輯. 331-333(2003).
- 9) NPO法人自然塾丹沢ドン会編集: 名古屋の自然ー丹沢の雑木林・棚田の復権と生き物たち, 夢工房, 神奈川. pp. 63(2003).
- 10) 藤野裕弘・内田晴久 他: 環境NPOと連携した体験学習型環境教育の試み(1). 2004年度日本環境学会第30回研究発表会講演要旨集. pp. 84-85(2004).
- 11) 室田憲一・藤野裕弘 他: 環境NPOと連携した体験学習型環境教育の試み(1). 東海大学紀要教養学部. 第35輯. 271-276(2004).

- 12) 室田憲一・藤野裕弘 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2)．2005年度日本環境学会第31回研究発表会講演要旨集．pp. 240-243 (2005)．
- 13) 室田憲一・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験学習型教育の試みー農業体験事例報告ー．東海大学紀要教養学部．第36輯．1-11 (2005)．
- 14) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPPを利用した具体的取り組み例～．東海大学紀要教養学部．第36輯．13-21 (2005)．
- 15) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2)．東海大学紀要教養学部．第36輯．249-255 (2005)．
- 16) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPPを利用した具体的取り組み例～．2006年度日本環境教育学会第17回研究発表会講演要旨集．pp. 146 (2006)．
- 17) 藤野裕弘・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(3)．東海大学紀要教養学部．第37輯．247-252 (2006)．
- 18) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(1)ー乗船体験実習ー．2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集．pp. 65 (2007)．
- 19) 室田憲一・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2)ー農業体験実習ー．2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集．pp. 66 (2007)．
- 20) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(4)．東海大学紀要教養学部．第38輯．271-278 (2007)．
- 21) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(1)～初等中等教育との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第38輯．279-285 (2007)．
- 22) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(5)．東海大学紀要教養学部．第39輯．289-294 (2008)．
- 23) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(2)～初等中等教育との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第39輯．295-301 (2008)．
- 24) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(6)．東海大学紀要教養学部．第40輯．365-370 (2009)．
- 25) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(3)～初等中等教育(SSH)との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第40輯．371-377 (2009)．
- 26) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(1)～．東海大学紀要教養学部．第41輯．309-313 (2010)．
- 27) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(1)～．東海大学紀要教養学部．第41輯．315-328 (2010)．
- 28) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(2)～．東海大学紀要教養学部．第42輯．297-304 (2011)．
- 29) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(2)～．東海大学紀要教養学部．第42輯．305-312 (2011)．
- 30) 藤野裕弘・青木靖 他：企業のCSR活動と連携した実践系授業の展開(ISO14001の活用)．東海大学紀要教養学部．第43輯．15-22 (2012)．
- 31) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(3)～．東海大学紀要教養学部．第43輯．329-339 (2012)．
- 32) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(3)～．東海大学紀要教養学部．第43輯．341-349 (2012)．
- 33) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(4)～．東海大学紀要教養学部．第44輯．269-278 (2013)．
- 34) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(4)～．東海大学紀要教養学部．第44輯．279-284 (2013)．
- 35) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(5)～．東海大学紀要教養学部．第45輯．355-367 (2014)．
- 36) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(5)～．東海大学紀要教養学部．第45輯．369-372 (2014)．
- 37) 北野忠・小栗和也 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(6)～．東海大学紀要教養学部．第46輯．237-242 (2015)．
- 38) 岩本泰・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(6)～．東海大学紀要教養学部．第46輯．227-235 (2015)．
- 39) 藤野裕弘・岩本泰 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第46輯．243-252 (2015)．

- 40) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に（7）～、東海大学紀要教養学部、第47輯、311-314（2016）。
- 41) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（7）～、東海大学紀要教養学部、第47輯、315-328（2016）。
- 42) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討、東海大学紀要教養学部、第47輯、329-337（2016）。
- 43) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に（8）～、東海大学紀要教養学部、第48輯、303-315（2017）。
- 44) 藤野裕弘・日比慶久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（8）～、東海大学紀要教養学部、第48輯、317-323（2017）。
- 45) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討、東海大学紀要教養学部、第48輯、325-334（2017）。
- 46) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に（9）～、東海大学紀要教養学部、第49輯、341-352（2018）。
- 47) 藤野裕弘・日比慶久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（9）～、東海大学紀要教養学部、第49輯、353-358（2018）。
- 48) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討：2017年度概要～知床試行演習：世界自然遺産を活用した実践的環境教育プログラムの構築に向けて、東海大学紀要教養学部、第49輯、359-376（2018）。
- 49) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に（10）～、東海大学紀要教養学部、第50輯、283-289（2019）。
- 50) 藤野裕弘・日比慶久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（10）～、東海大学紀要教養学部、第50輯、291-297（2019）。
- 51) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討：2018年度概要～知床試行演習：世界自然遺産を活用した実践的環境教育プログラムの構築に向けて、東海大学紀要教養学部、第50輯、299-317（2019）。
- 52) 藤野裕弘・倉元隆之 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に（11）～、東海大学紀要教養学部、第51輯、137-142（2020）。
- 53) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（11）～、東海大学紀要教養学部、第51輯、143-146（2020）。
- 54) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討：2019年度概要～世界自然遺産を活用した実践的環境教育プログラムの構築に向けて、東海大学紀要教養学部、第51輯、147-159（2020）。
- 55) 藤野裕弘・二宮洋 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2012年度概要～、東海大学紀要教養学部、第44輯、285-295（2013）。
- 56) 藤野裕弘・二宮洋 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2013年度概要～、東海大学紀要教養学部、第45輯、373-387（2014）。
- 57) 藤野裕弘・室田憲一：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2014年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系が目指す里川らしさ～、東海大学紀要教養学部、第46輯、275-287（2015）。
- 58) 藤野裕弘・落合由紀子 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2015年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～、東海大学紀要教養学部、第47輯、351-373（2016）。
- 59) 藤吉正明・高木俊之 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：藍植物の栽培と染色～、東海大学紀要教養学部、第47輯、375-379（2016）。
- 60) 藤野裕弘・室田憲一 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2016年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～、東海大学紀要教養学部、第48輯、349-369（2017）。
- 61) 藤吉正明・隈本純 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：水田での酒米栽培～、東海大学紀要教養学部、第48輯、371-376（2017）。
- 62) 藤野裕弘・室田憲一 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2017年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～、東海大学紀要教養学部、第49輯、407-422（2018）。
- 63) 藤吉正明・隈本純 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト（最終報告）～流域遊休地活性化コース：水田内に生育及び生息する希少動植物の記録～、東海大学紀要教養学部、第49輯、423-428（2018）。
- 64) 藤野裕弘・室田憲一 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2018年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～、東海大学紀要教養学部、第50輯、345-361（2019）。
- 65) 藤野裕弘・日比慶久：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2019年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～、東海大学紀要教養学部、第51輯、187-206（2020）。

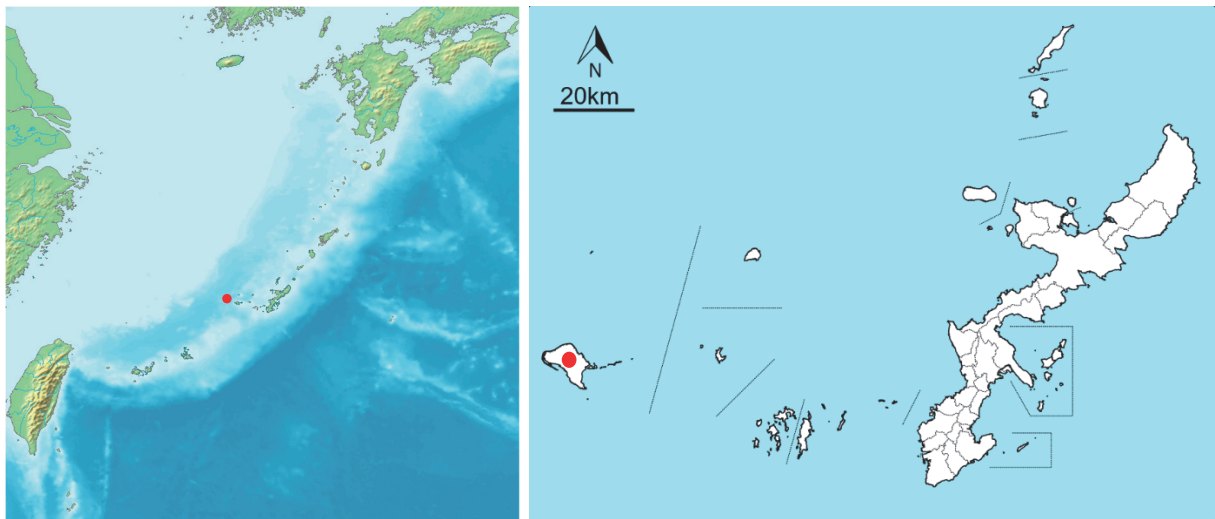


図1. 久米島の位置



図2. 久米島ホテル



図 3．宇江城城跡



図 4．宇江城城跡



図 5. 旧上江洲家（1754 年築：沖縄県最古の民家で国の重要文化財）



図 6. 畳岩



図7. 島尻岬



図8. 比屋定バンダ



図9．久米島博物館